

分野	21	保健・医療	通番 30
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	健康づくり教育事業	会計	款	項	目	785,162	健康医療推進室
		一般	4	1	4		
	事業の概要						
	「自分の健康は自分で守る」という意識と行動の浸透のため、生活習慣病や要介護状態の予防等の知識の普及を図り、健康意識を高めます。市民全体へのポピュレーションアプローチ及び個々への動機づけとなるよう従来の健康教育に、更に情報発信の方法や内容の工夫を行い、市民の健康増進に努めます。						

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	健康づくり啓発事業の参加者数				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	7,100 (平成26年度)	目標	7,100	7,100	12,000	12,000
		実績	12,359	14,442	13,792	15,641
	指標	広報・ホームページ等による健康情報の配信回数				単位 回
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	22(平成26年度)	目標	23	24	25	26
		実績	25	28	27	32
	・無料歩数計アプリを利用して、歩いた歩数に応じて商工会の協賛店からプレゼントが当たる健康マイレージ事業を実施し、527人が参加しました。普段、保健事業への参加が少ない40～50歳代の参加が全体の59%ありました。 ・若い世代の人も集まる既存の地域の集まりや小学校PTA行事、体育協会のイベントへ出向き、延べ796人に体組成測定、血管年齢測定や骨密度測定等を行い、健康情報の発信、検診等の啓発を行いました(まちの保健室)。 ・広報、ホームページ、検診会場、乳幼児健康診査などあらゆる機会を活用して、健康づくりについて情報発信を行いました。					 地域のイベントに出向いた際に使用しているのぼり

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		健康寿命		健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・各種検診や、40・50歳代男性の風疹の抗体検査・予防接種の案内等に健康マイレージ事業のちらしを同封したり、既存の地域の集まりやイベント等で市民へ対面で健康情報の発信を行った結果、健康づくり啓発事業の参加者数は目標数を上回りました。 ・計画的に広報・ホームページ等で健康情報の配信をした結果、配信回数も目標値を上回りました。
	課題等	・あらゆる世代に健康情報が届くよう、様々な方法での情報の発信を考えていく必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・健康無関心層やあらゆる世代に健康情報が届くよう、ちらし、広報紙、ホームページの発信だけではなく、市の公式LINEの活用等発信方法についても工夫をし、健康に関する情報提供を行っていきます。

分野	21	保健・医療	通番 31
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	成老人健康診査・がん検診事業		会計	款	項	61,076,966	健康医療推進室
			一般	4	1		
	事業の概要						
	健診・検診の受診勧奨やがん予防及び疾病予防の啓発を実施します。 国や京都府との連携や受診体制の更なる充実を図り、新たな健診・検診受診者の増加や定着を促進します。 また、歯科口腔を健康に保ち生活習慣病予防につなげるために、歯周疾患検診等の充実を図ります。						

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	大腸がん検診受診率				単位 %
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	23.1(平成26年度)	目標	23.5	24.0	24.5	25.0
		実績	22.6	21.1	20.2	20.2
	指標	乳がん検診受診率				単位 %
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1 2
	18.9(平成26年度)	目標	19.0	20.0	22.0	23.0
		実績	19.5	18.2	18.0	17.2
	・ 個別通知に同封するちらし等に、がん検診の申し込みフォームへ短時間でアクセスできるようQRコードを掲載し、スマートフォン等から簡単に予約ができるようにしました。 ・ 若い世代の人も集まる既存の地域の集まりや小学校PTA行事、体育協会のイベントへ年間13回出向いた際に、がんに対する正しい知識を普及し、がん検診の申し込みの受付を行いました。 ・ 国の「がん検診推進事業」において乳がん検診40歳、子宮がん検診20歳の対象者に検診無料クーポンを送付するほか、未受診者に対して再勧奨通知を行いました。				がん検診ちらし 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
	健康寿命	健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。		196
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	・ 簡単に予約できるようにちらしを改善したり、地域で市民に対面で話す機会を通じて受診勧奨をしましたが、乳がん検診が目標の80%以下の達成率となりました。
	課題等	・ 既存の広報の方法のみでは、検診を継続して受けることの必要性が市民に広く届いていない可能性があります。対面で市民に接する機会や、SNS等を積極的に利用して広報し、受診者を増やしていくことが課題です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 ・ 市民が検診の必要性を正しく理解し、受診行動へつながるよう広報を行っていきます。 ・ 検診の申し込みが手軽に短時間でできるよう、がん検診の案内の文書には引き続きQRコードを掲載していきます。また、その方法が市民に十分周知されるよう、地域で市民に対面で話す機会を通じて、情報を発信していきます。

分野	21	保健・医療	通番 32
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	食育推進事業		会計	款	項	目	-	健康医療推進室
			-	-	-	-		
			事業の概要					
家庭、保育所、学校、地域において様々な機会に、食生活と栄養についての知識の普及及び地産地消を推進し、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承に取り組み、第2次食育推進計画に従って事業を推進します。 また、長岡京市食育推進委員会の構成団体を増やします。								

令和元年度の取組						
D (取組)	指標	市内小学6年生の朝食欠食率				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1
	2.8(平成26年度)	目標	2.1	1.6	1.1	0.5
		実績	2.7	4.1	3.0	3.5
	・「学べる食育ひろば」として、乳幼児期の食事の食べさせ方と口の発達について講演会を行い、92人の参加がありました。会場にて保育所(園)での食育の取り組み及びフードバンク長岡京(食育関連団体)の活動内容を展示しました。 ・「体験できる食育ひろば」として、歯のひろばやガラシャ祭等4つのイベント会場にて、食育ブースを出展し、大人・子ども計518人が参加しました。食品に含まれる糖質量のクイズや、野菜のフェイスペイント、野菜の切り口クイズ、郷土料理のパズル、地元特産品や郷土料理のパネル展示等、来場者層に合わせた啓発を実施しました。 ・食育ワーキング会議や食育推進委員会では、第2次食育推進計画の評価及び第3次食育推進計画(素案)の作成を行いました。				学べる食育ひろば会場での活動内容展示	



施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和元年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		健康寿命		健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。		196
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	・朝食の欠食率については、ライフスタイルの多様化により、朝食に対する食欲や食事時間がなくなりがちであり、目標は達成できませんでした。		
	課題等	・小学生では、朝食を食べる時間がないことや食欲がないことを理由に朝食を欠食するケースが多く、就寝時刻との関連が高いと言われています。就寝時刻が遅くなる要因への対策も含めた朝食喫食のための啓発が必要です。 ・また、朝ごはんが用意されていないことも朝食欠食の理由の一つであり、保護者が朝食を食べない家庭は、子どもの朝食が用意されていないまたは食べない習慣がある可能性が高いため、親世代への啓発も必要です。				

目標達成に向けての次年度以降の対応						
A (行動)	方向性	対応策等				
	1:計画通りに進めることが適当	・令和2年度より食育推進委員会に登用する公募委員を含め、他部署とも連携・協同しながら朝食欠食率改善に向けて検討します。 ・夜遅くまでテレビやスマートフォンを見ないといった早寝早起きにつながる啓発を含め、朝食のメリットや大切さを周知し、親世代にも届く啓発を行います。				